
東方竜王伝

ふにやふにや

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方竜王伝

【Nコード】

N0504BA

【作者名】

ふにゃふにゃ

【あらすじ】

これは、何処にでも居るような高校生がいつの間にか幻想入りしてしまい、色んな東方キャラやそうだいな事件、信じられない事実に会いながら、旅をする物語

第1話 始まりと出会い（前書き）

これは東方二次創作です！！原作とは一切かんけいありません

ドラゴンクエスト？の竜王に関して出てきますが原作とは一切かんけいありません

オリキャラもでてきます

おこなかたはどうぞ

第1話 始まりと出会い

俺は愛奏結城、そこらへんにどこにでもいるような高1の男子学生だ、俺はいつものように学校から下校するところだった、いつものようにそこらの近いコンビニに入って立ち読みするはずだった、そして家に帰って、適当に勉強してゲームをするはずだった

だけど、そのいつもとは全然違う下校時、俺に悲劇が起きた・・・
どうやら車にひかれたらしい。

感じた事の無い痛みには俺は気を失いかけていた、もうすぐ死ぬって
感じの勢いだった

結「いてえ・・・なんだこれ・・・マジいてえ・・・」

気がだんだん遠のいていく・・・俺、死ぬのか？」

あまりにも突然の事に頭の中は混乱していたが、考える余裕がなかった

結「くそう・・・なんだってんだよ・・・」

その時、目の前がぱつと暗くなってしまうた・・・

・・・う、なんだこれ!？」

目が覚めた瞬間、見知らぬ場所にいた。そこはあたりは緑で生い茂り、俺が住んでいた都会とは比べ物にならないくらい自然いっぱいだった

・・・いつのまにか傷もふさがっている・・・

結「なんなのかさっぱりわかんねー!？なんなんだ? いったい!？」

この非科学的なことはなんだ!？」

俺が混乱していた騒いでいた瞬間、

?「きゃあああああああ!！」

結「な、なんだ!？今の悲鳴・・・なんかやばそうだな・・・

考えなきゃならねーことが山ほどあるってのに・・・クソ!

結城は悲鳴のする方向に走っていった

結「なんだってんだ?この悲鳴・・・。こんな深そうな森に・・・

クマかなんかか?・・・考えてたってしゃあねえ・・・な!？」

突然、結城は足を止めた。

結「なんだってんだ!？これ・・・」

目の前の光景が信じられなかった、1Mはある太い足と手、3Mはある緑色

の一つ目の巨体の化け物がいるのだ

結「なんなんだよ・・・いたい・・・ますますここが何処だかわかんなく なってきたぜ・・・とゆうかここ現代か??」

・・・よくみるとその化け物に隠れて黒い服の来た金髪の女の子がいた

結「おいおい!なんなんだよこの状況、とりあえず助けなきゃ!」

結城は辺りを見回し、状況を確認した

結「こんな所で喧嘩の成果がでるなんて・・・」

結城は結構喧嘩に巻き込まれたりしていたため

喧嘩慣れはしている方だった

結「よし！何とかなるか・・・」

そう思った瞬間、結城が

結「おい、その緑の化け物！こっちだ！」

化け物は気づいたらしく、こっちをむいた

化「ひぎゃあああああ！！」

結「く、気持ち悪ー叫びしやがる！」

まず結城は周りに落ちてた30CMほどの石をつかみ、化け物に向けて

投げつけた

ガゴン！！

化「ひぎゃあああああああ！！」

結「おし！目にあたった！！」

化け物の目に投げた石が当たり、もがき苦しんでいた。が、

ひゅん　　ザシュ！

結「うわ！」

がむしゃらに振り回してきた爪が腕に当たってしまった

さほど傷は深く無く、心配はないが、かなりがむしゃらに振り回しており、スキについて逃げるにも、これじゃあ少女に近づくことができない

結「くそ！どうすればいいんだ・・・」

その時、金髪の少女が落としていたらしいカードを拾い、
なにか唱え始めた

？「夜符 ミッドナイトバード！」
唱えた瞬間、カード朽ちるように消え、黒い鳥みたいなのが出現し
化け物めがけて飛んでいった

しかし化け物も負けておらずジャンプしてかわそうとしたが、
あの黒い鳥は追尾効果があるので、そのまま曲線を描き、化け物
にそのまま命中した。

化け物はまっさかさまに落ちてきて、地に叩きつけられた
化け物は流石に目をまわしたらしく、動きそうに無い
？「いまのうちに逃げるのかー！」

結「お、おう」
そのまま少女と結城は森の中を走っていった

隙間の中~~~~~

藍「紫様！」

紫「あら、藍、そんなにあわててどうしたの？」

藍「紫様、この不気味な魔力は！？」

紫「あら、藍も気づいたのね」

藍「はい……」

紫「そうね……ほんとに極わずかだけど感じるわ……、そんな
ばかな

話ないと思ってたんだけど……ほんとだったなんてね……

藍「この魔力があのだ……」

紫「そうね、いるみたいね……数千年前世界を恐怖で陥れた……

「

紫「あの竜王の末裔がどこかに・・・」

第1話 始まりと出会い（後書き）

どうもふにゃふにゃです

連載投稿はじめてだったんですが、どうでしたか？

まあド素人ですが・・・

なんかはじまりがベタツぽい・・・

これからもめげずに書いていくのでよろしくおねがいます
まあ気長にみてってください

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0504ba/>

東方竜王伝

2012年1月1日00時55分発行